総合教育センターだより

街路樹

発行第１８３号
令和６年７月１２日（金）
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町１−４
０２４６（２２）３７０５

7月

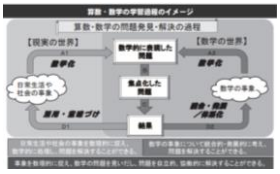
「算数・数学の授業改善の視点と実践例紹介」

公園を出て30分歩いて、学校に11時10分に着きました。公園を出た時こくは何時何分ですか。
【東京書籍小学3年上より】

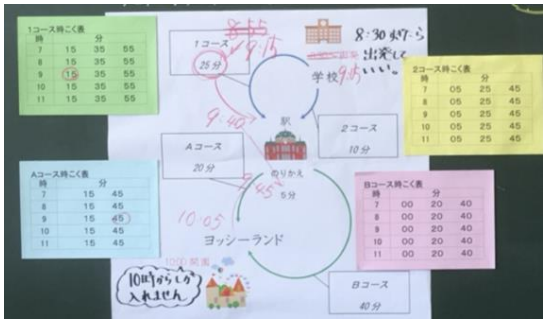
予想される児童の反応
Ｃ：11時10分の30分前を急に考えるのは難しいな。
Ｃ：11時ぴったりまでの時間を考えるといいね。
Ｃ：11時までの時間は10分だね。
Ｃ：全部で30分だから、残りは20分になるね。
Ｃ：11時の20分前だと10時40分になるね。

「11時ぴったり」や「残りは20分」など、子どもたちなりの表現を用いて解決をしていく姿からは、これまでに身に付けた知識や技能を生かして解決をしていこうとするたくましさを感じることができます。

さて、算数・数学の学習過程では、右のように日常生活や社会の事象と数学の事象の、二つの過程が相互に関わり合って展開することが求められています。



そこで、「周回バスを使って遊園地に出かける」問題場面を考えてみました。



「自分だったらどのバスを使うのか？」「その理由は？」学んだことを生かして自分の意志決定をしていく学び。答えのない学び。子どもにとってワクワクする学びになりませんか？（問題場面の詳細は総合教育センターＨＰで確認することができます。）

「初任者・新規採用養護教諭研修より」

令和6年度、いわき市では、初任者64名・新規採用養護教諭4名、合計68名が研修に臨んでいます。各所属校での研修や経験を積み重ねると同時に、本センターが計画する各種研修をとおして、教職員としての資質向上を図っています。

４月11日（木）の一般研修①では、『社会人としてのマナー』『子どもの見方・とらえ方』等について理解を深めました。希望に満ちあふれ、意欲的に研修に臨む姿が印象的でした。

５月30日（木）の一般研修②は、いわき海浜自然の家で行われました。午前中は、野外炊飯に取り組みました。研修者同士が積極的にコミュニケーションをとり、指導者視点と研修者視点を併せもって楽しく活動しました。午後は、市小学校長会長の大内克之先生より講話がありました。トークフォークダンスを取り入れ、「教師とは未来を作る仕事」「学び続ける者こそ教える資格がある」等のキーセンテンスを織り交ぜ、これからの社会や学校教育に必要な情報を多く示していただきました。

次に、「2か月の勤務を通して」と題して協議を行いました。授業やその他の場面において、よかったことと不安に感じていることを一人一人が書き出し、それをグループ内で共有した上で解決策を見つけていきました。その協議には指導主事も加わり、要所で助言しながら取り組むことで、研修者からは「翌日からすぐ実行したい」という声が多く聞かれました。

各所属校での校内研修も、研修者や各校の先生方が意欲を高めて取り組んでいることと思います。採用後すぐの研修者は、必ずしもうまくいくことばかりではないかもしれませんが、校内研修と、本センター等での校外研修を両輪として、児童生徒との日常を積み上げながら前進してくれることを願っています。懸命に試行錯誤を繰り返す研修者を、皆で支援していきましょう。

「電話相談より」～教育相談部～

教育相談室の電話相談（すこやか教育相談）は、母親からの相談が多いのですが、祖母からの電話相談もチラホラみられます。その内容は、同居していないお孫さんや市外にいるお孫さんの不登校に関するものが多くなっています。両親又は母親の仕事が忙しく、子供にあまり関わっておらず、祖母がお孫さんの将来を心配し、学校には相談できずにどこに相談してよいかわからず電話をしてくることが多いようです。

このような相談を受けると子供の「心の貧困」が見えてくるような気がします。

両親、特に母親からの愛情を受けなければならない時期に愛情を受けられず、コミュニケーション能力や忍耐力が欠如しているお子さん、母子分離不安などが原因で学校生活に適応できず不登校傾向になってしまうお子さん、愛情飢餓状態（乳幼児期に親に甘えられていない）特有の攻撃性を見せるお子さんが増えてきているように思います。

このような場合、子供たちの不安や悩み、気持ちを、カウンセリングマインドでじっくりと受け止める大人の存在が必要です。場合によっては、臨床心理士も必要になってきます。また、子供の支援と併せて、親に対する支援が必要なケースも多く感じられます。

まずは、カウンセリングマインドを大切にしたいものです。

＊カウンセリングマインドの基本態度
・傾聴的態度に徹すること。
・共感的態度で親身になってかかわること。
・純粋な態度で接すること。